きめ細やかな水管理でりんご産地を次世代に引き継ぐ

国営かんがい排水事業及び関連事業により、整備された土地基盤及び安定的な用水確保のもと、りんごの新わい化栽培やそれに適応した水管理、直売所での販売促進に取り組むとともに、里親として新規就農者を育成する等、地域農業のリーダー的役割を担っています。

国営かんがい排水事業
「中信平地区」昭和40～52年度
関係市村：長野県松本市、安曇野市、塩尻市、山形村、朝日村
受益面積：10,691ha
概　　要：水田及び畑へのかんがいのため、頭首工の改修、用水路の新設・改修。

国営かんがい排水事業
「中信平二期地区」平成17～26年度
受益面積：8,847ha
概　　要：適切な用水配分と施設機能改善を図るため、頭首工、用水路を改修。

おびなた　よしろう
帯刀　佳郎
【長野県安曇野市】

経営面積：5.9ha
主要作物：りんご
労 働 力 ：自家労働４名
臨時雇用４名

りんご新わい化栽培の導入

事業により用水の確保や畑地かんがい施設が整備されたことから、りんごわい化団地が形成されました。

さらに安定的な用水を利用し、長野県の試験場で開発された新技術である新わい化栽培を10年前から導入したことで、収穫や剪定の手間がかからない効率的な作業が可能となり、労力軽減が図られました。

新わい化栽培での作業は、樹体があまり大きくならず通常のわい化栽培よりも低い位置で収穫や剪定が可能となります。

また、定植してから3年程度で収穫が可能なため、無収入の期間が短くてすむという利点もありますが、樹体の寿命は普通樹に比べて短く、ほ場に植える苗木も多く必要とするので、帯刀氏はコスト削減のため苗木を自家生産しています。

新わい化栽培のりんご

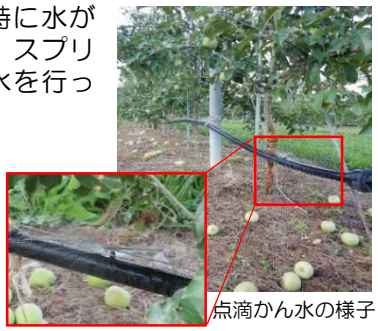
きめ細やかな水管理

りんごの新わい化栽培は、密植するため成木栽培に比べ根域が狭く浅くなる分、干ばつの影響を受けやすくなりますが、地域ではスプリンクラーや給水栓が整備されているため、きめ細やかな水管理が可能となっています。

特に、給水栓を活用した点滴かん水により、樹の根元に直接散水することで、常に一定の土壌水分を保つことができ、収量の安定につながっています。

苗木の生産時にも特に水が必要となることから、スプリンクラーによるかん水を行っています。

また、防除にも畑かん用水を有効に活用しています。


点滴かん水の様子

消費者の動向を踏まえた品種選定

りんごは、JAに出荷するほか、周辺の直売所（６箇所）で販売しています。梓川上流の山岳景勝地である上高地を訪れる観光客が直売所へ立ち寄る時期に合わせ、11月の閉山までにより多くのりんごを提供できるよう品種を複数栽培することで、販売期間の拡大を図っています。また、苗木を自家生産しているため、新たな品種導入を試み、直売所で販売することで消費者の反応を伺っています。

なお、直売所では規格外品も手頃な価格で販売し、下級品のりんごは加工し「帯刀農園りんごジュース」として、直売所のほか、道の駅や近隣の酒屋で販売するなど６次産業化にも取り組み収益を上げています。

帯刀氏が組合長を務める
直売所「三郷サラダ市」

担い手育成と農地利用集積等の貢献

農業研修生を積極的に受入れるとともに、長野県の新規就農里親支援事業の里親として、新規就農希望者を研修生として受入れ、栽培技術の習得から農地・住宅情報の収集・提供、就農後の相談までをマンツーマンで支援し、地域の営農を支える担い手の育成に尽力しています。平成27年から里親として受入を開始し、１名が地区内で就農しており、現在も研修生１名を受入れ栽培技術の指導や、地域で就農しやすいよう様々なサポートを行っています。帯刀氏の後継者は、りんご農家の３代目として地域のりんご産地を担う頼もしい存在となっています。

また、高齢化等により営農を続けることのできない近隣農家の樹園地を引き受けるなど、遊休農地の発生を未然に防ぐとともに、農地の集積・集約化による規模拡大を目指しています。

研修生と帯刀農園の皆さん